

「大丈夫？」のそのひとこと

山形県 高島中学校 3年 高橋 優奈

(どうしよう……。どうしたらいいんだろう。)

あのときの私の頭の中は、そんなことでいっぱいだった。

それは、とあるイベント会場でステージをみていたときのことだった。アンコールがかかり、みんなが手拍子をし始めた頃、私の前にいた人が突然しゃがみこんでしまった。体調が悪くなってしまったのだろうか、その人はしゃがみこんだまま動かなくなってしまった。

私はおろおろと周りを見渡すばかりで、何もすることができなかった。そんなことをしている間に、その人はいっしょにきていた友人に連れられ、その場を抜けてしまった。せめて、

「大丈夫ですか？」

と、ひとことその人にかけることができたなら。私一人が声をかけたところで、状態がよくなるわけではないかもしれない。でも、私はとても後悔していた。「大丈夫？」のそのひとことで少し気が楽になることを、私は身をもって知っているはずなのに。

数年前、私は学校の授業で、とある映画をみていた。最初はふつうに映画をみていたのだが、終盤私は突然吐き気に襲われた。だんだん呼吸も荒くなってきて、ふつうに座っていることもつらくなってきた。先生のところへ自力で行くこともできずにいた。そんな私の異変に気づいたのか、となりにいた友人が、

「大丈夫？ 体調悪いの？」

と声をかけてくれた。友人のそのひとことで、私は少し気が楽になったように思えた。あれだけ一人で苦しんでいたのが、救われたような感じがした。私はそのとき、声をかけてくれる人がいるのってありがたいな、と心から思った。

自分が苦しいとき、つらいとき、誰かが声をかけてくれるのは本当にうれしいことだ。私はそのことを知っているはずなのに、自分が過去にしてもらった親切を、あの人にするのができなかった。

知り合いに声をかけるのならまだしも、見知らぬ人に声をかけるのは少しためらう人もいるだろう。しかし、ほんの少しの勇気を出せば、誰にだってできることだ。私は、そのほんの少しの勇気を出すことができなかった。

私は、肝心なところで勇気の出ない自分を変えたいと思った。今回のことはあまり大事には至らなかったようだが、もしこれが一刻を争う事態だったら。命が危ないという状況だったら。勇気が出なかつただけでは済まされないだろう。

ほんの少しの勇気と相手を思いやる気持ち。それをもつことができたなら、きっとこんな自分を変えられるだろう。これから先、同じようなことが起こるかもしれない。もう同じ後悔はしたくない。誰かを救う言葉が自然と言える、そんな人に私はなりたい。